

4th IRTG Joint Symposium への参加

理学研究科理学専攻 物質・生命化学領域 生物無機化学研究室
博士後期課程 1年 須貝友紀

【出張先・出張期間】

ミュンスター（大学ドイツ） 2023年5月12日～5月19日

【出張目的】

4th IRTG Joint Symposium への参加、ミュンスター大学への留学機会の獲得

【概要】

5月15日、16日にミュンスター大学で開催された IRTG Joint Symposium に参加した。本シンポジウムは、主に化学分野での名古屋大学とミュンスター大学による共同研究や留学の推進を目的としており、1日目に教員による研究紹介と学生によるポスター発表が行われ、2日目にそれぞれの大学の PI と学生がディスカッションをする機会が設けられた。私は、所属研究室の荘司長三教授とともにミュンスター大学に所属する Anna Junker 博士、Line Naesborg 博士と融合研究に向けたディスカッションを行った。また、女性研究者が集まり、キャリア等について話し合う会に参加した。シンポジウム前後には、現地学生の案内でミュンスターの街中を観光した。

【所感】

研究発表に関して

今回のシンポジウムは有機化学の反応が主に扱われており、馴染みのない内容や初めて聞く単語がいくつも登場した。きちんと理解ですることができれば面白い内容のようだったが、ポスターの説明を聞いても碌に質問が出せず非常にもどかしい思いをした。シンポジウムの合間にはミュンスター大学の施設を案内してもらう機会があり、研究棟の設計や研究室の設備を見ることができた。化学物質の流出防止のための隔離機能や、overnight 反応のための自動消火設備など、安全対策が徹底されている印象を受けた。

ディスカッションに関して

Anna Junker 博士とのディスカッションでは、酵素に結合させる分子の構造を相談した。Anna Junker 博士自身が普段用いている戦略や我々の取り組んでいる内容に関する具体的なアドバイ



図 1 Anna Junker 博士とのディスカッションの様子

スを教えていただき、非常に勉強になった。Line Naesborg 博士とのディスカッションでは、共同研究を提案し留学の計画を進めることになり、大変貴重な経験ができた。女性研究者での集まりでは、ミュンスター大学に所属する PI から女性研究者に関する課題や、男女差別に立ち向かうためのアドバイスをいただいた。日本では話題に上がりにくい話もから聞くことができ、刺激を受けた。同時に、どの国でも似たような課題が残っているようだと感じた。



図 2 女性研究者の会の様子

現地学生との交流に関して

ミュンスター大学の学生の案内でミュンスターの市場や教会、動物園を回った。街並みも現地の人の過ごし方も食事すべて日本とは大きく異なっており、文化の違いに驚いた。ミュンスターの施設やドイツの歴史・文化に関して、快く説明してくれ、大変勉強になった。私自身は今までは日本のことをそれほど細かく説明できないと感じ、国際交流において自国の理解も重要だと学んだ。英語でのコミュニケーションに関しても、言いたいことを英語でどのように伝えたら良いかわからず、上手くコミュニケーションを取れない場面や、現地学生同士の会話についていけない場面が多々あり、英語能力の必要性を痛感した。



図 3 現地学生との交流の様子

【謝辞】

本プログラムのコーディネーターである山口茂弘教授、渡航のマネジメントをしていただき現地でもお世話になりました物質科学国際研究センターの木原さん、シンポジウムとその前後の時間で非常に有意義な経験をさせてくださったミュンスター大学の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただきました莊司長三教授、本渡航をご支援いただきました GTR 運営関係者の皆様および GTR 学生支援室の皆様に感謝申し上げます。